



ご挨拶

平年より梅雨入りが早かったので、明けるのも早いかと思いましたが平年並み。それでも待ちに待った暑い夏がやっと到来しました。今月は1年延期となった東京オリンピック、パラリンピックも開幕です。残念ながらコロナの影響で盛り上がりは今ひとつのようですが、テレビの前でしっかりと日本を応援しましょう。今年は、いつもの夏より少し違う体験ができるかも知れません。私事ですが、公民館長になって丸2年が過ぎました。至らぬ事ばかりですが、今後もよろしくお願いいたします。

【大雨、土砂災害の危険増大！】

梅雨末期で各地で大雨が降り、伊豆半島では大きな災害が起きました。線状降水帯が発生し、局地的な豪雨で地盤が緩んで河川はすぐに増水して濁流となってあふれます。降水量が半端なく多い上に、近年はシカの食害でササなどの下生えが消滅し、山の保水力や支持力が低下し土砂災害の危険が増大しています。日頃から防災意識を高め、危険を察知したら避難しましょう。



大雨で増水した久斗川(2021年7月7日)

【早朝よご苦勞様。資源ゴミ回収】

梅雨明けが発表された17日、早朝7時より「久斗山・境地区子ども会」により資源ゴミ回収が行われました。この日は朝からいい天気になりました。大人達が軽トラで各戸を回り新聞紙や雑誌、アルミ缶などを回収し、久斗山ふれあいセンターに集めます。子供達は軽トラが帰ってくる度に荷台にいっぱいになった新聞紙や雑誌を下ろしたり、本の束を積み上げたりしました。8時過ぎに引取り業者(木下産業)のトラックが来て、みんなで積み込みました。例年と同じぐらいの量かな？地区のみなさん、ご協力、有り難うございました。



回収した新聞紙などを軽トラから下ろして積みあげる。



【夏だ！キャンプだ！】

17日～18日、上山高原でキャンプが開催(NPO法人上山高原EMUズ)されました。公民館行事として参加を募りましたが、残念ながら地区からの参加はありませんでした。

でも、子供2名を含め、15名の参加者が高原の一夜を楽しみました。18日には綺麗な朝日を見ることができました。さあよいよ本格的な夏です。山に海に楽しい夏の思い出を作りましょう。



【野生動物(熊,白鼻芯,猪)の被害続出！】

・ツキノワグマ：秋の柿が実る時期に民家の近くに出没することが多い熊ですが、今月、西ノ谷の桃の実を食べに来ており、枝を折って熊棚を作っていました。



・ハクビシン：トマトが赤く熟す頃を見計らって、夜間に畑に出没。熟れた実だけを食べ、皮だけ残しています。



網で囲っても支柱を登って侵入するので厄介。木酢液の匂いに忌避効果が有るようです。

・アナグマ：甘いものを好むので、メロンやスイカが被害に合います。メッシュ金網の柵である程度は侵入を防げます。

【見慣れぬ風景、ダンドボロギク大繁殖】

耕作しなくなった山田、自己保全で耕耘した田んぼに、今年は一画面青々と見慣れぬ草が繁茂しました。この草はダンドボロギクという北米原産の外来植物です。茎が伸びて先の花が付き、やがて綿毛のある種子ができて、風に乗って広範囲に飛散し広がります。若葉は食用になるらしいけど、シカは食べないので各地で大繁殖しています。かなり違和感を覚える風景です。



耕作してない山田に大繁殖

【久斗山祖師堂について】

久斗山の村中橋を渡り、西ノ谷に向かってすぐ左側の山際にあるお堂は、明治時代に建てられました。善住寺(真言宗)の檀家が多い地区内で、少数である栄福寺(日蓮宗)の檀家(現在7戸)の拠所になっており、毎年、7月15日に祭りが執り行われます。



○令和3年 8月の行事

- 2日(水) 「人権文化町民運動街頭啓発」 (4:00~ 人権推進実行委員会)
- 14日(土) お盆 (※供養踊りはしません)
- 22日(日) 「川遊び&生き物観察&魚取り」 (9:00~12:00 久斗山公民館行事)
- 22日(日) 「人権学習会」 (19:30~ 人権推進実行委員会)



ジオsen.s(センテンス)但馬因幡探求クラブ
好奇心のタネをまこう

- 「変形菌ハイキング&迷路実験」
・日時:令和3年7月31日(土) 10時~15時
・場所:新温泉町久斗山 大杉神社
・料金:一人1,000円・講師:原紺勇一
- 「久斗川の生き物観察会」
・日時:令和3年8月7日(土) 10時~12時
・場所:新温泉町久斗山 久斗川河川敷
・料金:一人800円・講師:山本一幸
- 「ウミホタル観察会」
・日時:令和3年9月11日(土) 19時~20時30分
・場所:新温泉町芦屋 浜坂遊覧船乗り場
・料金:一人800円・講師:松岡千都

【申込み・問合せ先】

ジオsen.s但馬因幡探求クラブ
Tel:090-3688-4200(松岡)
E-mail:geosen.s.tankyu@gmail.com



オモダカの花。
可愛く見えるが田んぼの嫌われ者

今月の野草
オモダカ

田んぼの草取りで必ず出会う雑草。細長い柄を二、三〇センチ伸ばし、その先に矢尻の形をした葉をつける。成長すると茎から柄が伸びて、白い花びらが三枚ついた花を咲かせる。

おせち料理に使うクワイは、この栽培品種で人の役にたつ。花もわりと可愛いく見えるが、とにかく田んぼの雑草として、印象は良くない。

かつてに昔話
谷は緑なりき(第一話)

生まれも育ちも同じ、大人になってもその場所にとどまり、そこで死んで、その地のお墓に入る。そんな人生の人って、世の中にならぬ。私、いつかは、久斗山で生まれ、小中高と学校も地元、働き場所も町内で、観光旅行以外はよその地に行つた事も無く住んだことありません。この先、死んでお墓に入るのも久斗山です。さて、今回は、そんな人生に係してようなお話・・・

昔むかし、ある場所にこじんまりとした谷がありました。その谷には百戸ほどの小さな村がありました。谷の中央に、澄んだ水の流れる川があり、大きな湖に注いでいました。時期になると湖から鱒がいっぱい川に遡り、卵を生みました。谷の周囲は、いつも山頂に雪のある高い岩壁の山々に囲まれ、山裾は豊かな森になっていました。村の人々は森と川の間のわずかな平地を耕し、稲や野菜を作り、森や川、時には湖の恵みを得て生活をしていました。土地は肥え、いつも豊かな収穫をもたらし、人々は長きにわたって平和に暮らしていました。

村の人口は、八百人ほどで、数のわりには多く、子供から若者、成人から老人に至るまでほとんどい割合で、三世帯が暮らしている家も多くありました。田植えや稲刈り、野菜の収穫などは大人も子供も手伝い合い、人手がいる時はみんな協力して作業を行ないました。これまで大きな争いはありませんでしたが、いくつかが村の掟があり、年配の長老達数人が取り仕切っていました。(つづく)